2017.12.15

分科会議事メモ（5.研修・留学プログラムの制度等）

- （大学） AGRI-Net で研修の受入となる場合の手順や契約方法の概要を教えてほしい。
- （JICA） AGRI-Net は、新規に何かを立ち上げるというよりも、既存の課題別研修をプラットフォームとし、関連した研究への留学につながる研修員(将来の留学生)と大学のマッチングを図ることを検討している。スケジュールは、2018 年度に（AGRI-Net 構想について）アナウンスし、2019 年度に開始を検討。本件のための特別な契約は検討していない。
- （大学） 新留学生プログラムのように、既存のプログラムも簡素化というが、2018 年度からの見通しを伺いたい。現行は翌年度末までの学会に伴う旅費の詳細な時期・実施県などを積み上げ、変更があれば打合せ簿を交わすなど、負担が大きい。
- （JICA） 既存プログラムの中で、特別プログラムの契約等、簡素化のニーズを教えていただきながら、できるところから進めたい。競争的資金については抵触しないようにすればよい。学会旅費の計画についても、年間国内、海外の回数を記載し、海外では基準地を定める程度とするなど簡素化を図ることが一案。
- （大学） 新留学生プログラム、既存のプログラム等、多くある中で、入学金等の支払時期を毎回問合わせるのではなく、データベースを作るのが効率的でないか？
- （JICA） データベースを作り、1 年に 1 回程度大学に更新いただく形として都度大学に問い合わせることはやめたい。
- （大学） SATREPS など、研究プロジェクトで留学生を受け入れることがあるが、方式が種々あり、できれば統一したらよいと考えるがどうか。
- （JICA） 配布資料の個別研修・SATREPS の方式をできれば横断的に適用したい。
- （大学） 開発大学院構想は、新留学生プログラム、ABE 等と並列ではないようだが、その理解でよいか。また、この構想に賛同して負担をしているのに留学生が来ない、賛同せず負担をしないのに留学生が来るという部局間の不公平感がある。
- （JICA） 開発大学院構想は、あくまでも構想であり、横断的に俯瞰したもので、（大学の関係部局と JICA とで）協力しながら実施するもの。開発大学院構想に賛同いただいた大学に優先的に留学生を送るようにと考えている。
- （大学） 既存の ABE では契約内に含まれていた指導教員の旅費が、新留学生制度では別契約となるようだが、指導教員の旅費のための契約を別途締結するのは負担。
- （JICA） 財務省からは留学生自身に関する経費は認めるが、指導教員に関する経費は相当の理由がなければ認めがたいとされている。例えば、留学生が現地調査を行う際、指導教員による現場での直接の指導がなければ、適切な情報収集ができない等の明確な理由があれば認める等。財務省からは JICA の留学生受入れについて極めて厳しい目が向けられており、別契約を引き出すも精いっぱいであるのが現状。
- （大学） 入試、支払のタイミングが様々で、国費留学生等とも異なる。大学のタイミングに合わせられないか。
- （JICA） 比較的大きなロットの ABE に合わせるなどで合理化が図れるとよいと思っている。